

OSIPP 教官が 小学校に 出前講義

小学生を相手にした、OSIPP教官による“出前講義”が6月から始まっている。

児童は京都市伏見区の市立久我の杜(こがのもり)小学校の6年生。来年度から「総合的な学習の時間」が全小学校で導入されるが、研究指定校になっている同校がその一環として先駆けて企画。市の教育センターから打診を受け、OSIPPとしても大学の社会貢献という点で意義が大きいことなどから実現した。大学教授が小学校で講義することは、カリキュラムの入った体系的な授業としては「おそらく全国初」(研究主任・山田潔教諭)。授業は「日本と世界・連続講座」と題

され、教授1人が45分授業を連続2コマ行い、6月から10月まで計7回開いている。



第1回は6月18日、**林敏彦教授**が「**日本のなかの世界と世界のなかの日本**」と題して講義(=写真)。「子どもに対して話すのも院生に対して話すのも、基本姿勢は同じ。伝えたい内容が変わるわけではないから」と話す林教授は、あらかじめ注文しておいた出前のきつねうどんを小道具として駆使。目を丸くした児童らに、日本食であるきつねうどんの原材料は大

豆や小麦だが、それらほとんどが輸入品であることを説明した。さらに経済について「他の人に真似できひんことをするのが分業やで」「日本が得意なものを売って必要なものを買うのが貿易なんや」と分かりやすく解説。講義の最後に「だからみんな



・ 京都の小六相手に七回連続
・ 大学の社会貢献としても

なといっしょでなくてもかまわない。他の人に持っていないものを持っているのが大事なや。いろんな子がいるのが楽しいんやから、No. 1じゃなくてOnly Oneになって下さい」と伝えて締めくくった。

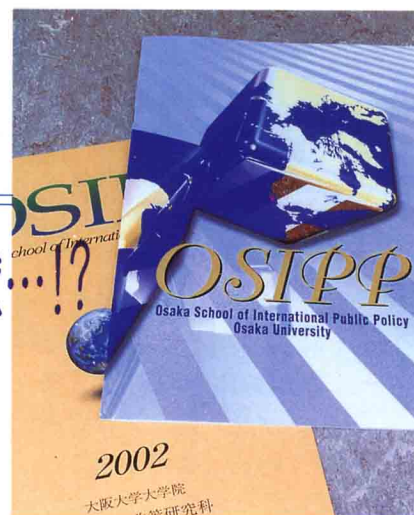


第2回は6月29日に行われ、**高阪章教授**が「**国が豊かになるみちすじ：日本とアジアと世界と**」というテーマで講義した。高阪教授は児童の祖父母、父母が幼少の頃どのような生活をしていたかを聞き出しながら、自身も子どものころには薪を燃やしてご飯を炊いていたと振り返り、生活に身近な視点から技術の発展や日本の経済成長の経緯を説いた。また、「近所」であるアジアの発展については、マレーシアの作家が描いた絵本を見せて解説。40年ほど前の記憶と現在とが描かれているこの絵本を→

転がるサイコロの地球...!?

初の英文パンフなど発行

OSIPPを紹介する初の英文パンフレットが、4月にできあがった(=写真)。A4版、オールカラーの20頁。表紙は、サイコロ状にデフォルメした地球が転がっているデザインで、OSIPPの躍動感とグローバルな学風を表している。これまでは海外向けの適当な資料がなかったため作られた。



また、和文のパンフレット、ポスターも改定され、2002年度版が6月に発行された。今回はオレンジ色を基調として統一。本誌バックナンバーの記事も多数抜粋されている。A4版、オールカラーの36頁。